

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

教養科目・外国語科目カリキュラム・ポリシー

本学の教育目的に基づきディプロマ・ポリシーを実現するために、次の通り教養科目・外国語科目カリキュラム・ポリシーを定める。

1. [専門教育との連関]

- ・本学の学生としての学修の質を全学的に保証するため、主として1・2年次に教養科目および外国語科目を配置し、各学科等における専門的学修の基盤となる素養や諸技能を養成する。

2. [教養科目]

- ・幅広い教養科目を「人間と宗教」「ジェンダー・キャリア形成」「人間形成」「リテラシー」の各区分に配し、広い視野や多角的な視点を養成する。
- ・能動的学修の確立をめざし、学修への高い意欲と主体的な態度を養成する。

3. [外国語科目]

- ・多彩な外国語科目を設け、個々の関心に応じた履修を可能にし、3・4年次に上級科目を置き、より高度な学修の機会を提供することを通して、実践的な外国語コミュニケーション能力を養成する。
- ・海外留学プログラムおよび語学研修科目等を設け、国際交流の機会を提供することを通して、異文化を理解し、国際的な視野をもって行動できる力を養成する。

英語文化学科 カリキュラム・ポリシー

本学科の教育目的に基づきディプロマ・ポリシー（以下DPという。）を実現するために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1. (カリキュラムの体系性および順次性)

- ・1年次に大学共通の教養科目、1・2年次に学科基礎科目、第二外国語科目を通して大学における学修の基盤形成を図る。
- ・1・2年次に英語力を集中的に身につける基礎科目を開設し、併せて2年次からは実践科目を配置することにより、1年次から4年次を通して英語力の向上を図る。
- ・1年次から講義形式と演習形式の専門科目を段階性をもって体系的に配置する。
- ・4年次の卒業研究（論文）を必修とし、学修の総合的成果として位置付ける。

2. (教養・外国語教育)

- ・DP各項目の基盤形成に資するために、1年次に全学的な幅広い教養科目を偏りなく履修することにより広い視野や多角的な視点の獲得を促す。
- ・英語以外の外国語科目を1・2年次に配し、英語文化以外の言語文化への関心を促す。

3. (専門教育)

- ・「文学・文化」「言語・コミュニケーション」の2専修を設け、それぞれの分野の授業を通して専門性を高める。
- ・4年間を通して演習形式の科目を段階的に設置し、専門性を高めると同時に、自ら分析的・論理的に探求し、論文を仕上げるプロセスを学ぶ。
- ・講義科目は1年次から、講読科目は2年次から段階的に配置し、自己の関心や知識の深まりに応じた履修を促し、一連の演習科目を通して培う思考力、批判力、表現力にさらなる広がりを実効性を与える。

4. (キャリア教育)

- ・卒業後を見据え、学科の学びとキャリア形成との関わりを認識するために、1年次からキャリア教育科目を必修とする。
- ・英語通訳・翻訳技術、プレゼンテーション力を身につける授業や児童英語プログラムなど、キャリアへとつながる科目群を1・2年次から開設する。

5. (学修の方法と評価)

- ・DPの達成に資するべく、講義・演習の別に関わらず能動的学修の要素を取り入れた授業を提供し、完成段階の卒業研究(論文)へと効果的に導く。
- ・卒業研究(論文)の評価基準を設け、厳正にこれを適用して評価することにより、総合的学修成果の指標とする。

カリキュラム・マップ(16ページ)

日本語・日本文学科 カリキュラム・ポリシー

本学科の教育目的に基づきディプロマ・ポリシー(以下DPという。)を実現するために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1. (カリキュラムの体系的および順次性)

- ・1年次に大学共通の教養科目・外国語科目および学科の基礎科目を通して大学における学修の基盤形成を図る。
- ・2年次以降には講義形式と演習形式の専門科目を段階性をもって体系的に配置する。
- ・4年次の卒業研究(論文)を必修とし、学科における学修の総合的成果として位置付ける。

2. (教養・外国語教育)

- ・DP各項目の基盤形成に資するために、1年次に全学的な幅広い教養科目を偏りなく履修することにより広い視野や多角的な視点の獲得を促す。
- ・異文化理解の一環として外国語科目を主として1・2年次に配し、個々の関心に応じた柔軟な履修を促す。

3. (専門教育)

- ・1年次の講義形式の基礎科目を基盤にして、2年次以降は、日本語・日本文学と日本文化の2専修を設け、それぞれの時代・分野を網羅した授業を通して専門性を高める。

- ・ 2年次以降の各学年に配置する演習形式の科目を学科の学びの根幹として、DP 各項目を基礎段階から発展段階へと高める。
 - ・ 2年次以降の講義形式の科目は、自己の関心・知識の深まりに応じた履修を促し、根幹の学修に対する補完とする。
4. (キャリア教育)
- ・ 卒業後をも見据え、学科の学びとキャリア形成との関わりを認識するために、1年次からキャリア教育科目を必修とする。
 - ・ DP 各項目の汎用性を高めるために、教員養成、資格支援、専門研究、キャリア・リテラシーに関する科目群を3年次から開設する。
5. (学修の方法と評価)
- ・ DP の達成に資するべく、講義・演習の別に関わらず能動的学修の要素を取り入れた授業を提供し、完成段階の卒業研究(論文)へと効果的に導く。
 - ・ 卒業研究(論文)の評価基準を設け、厳正にこれを適用して評価することにより、総合的学修成果の指標とする。
- カリキュラム・マップ (17 ページ)

文化総合学科 カリキュラム・ポリシー

本学科の教育目的に基づきディプロマ・ポリシー(以下 DP という。)を実現するために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1. (カリキュラムの体系性および順次性)
- ・ 1年次に大学共通の教養科目・外国語科目および学科の基礎演習と入門科目を通して大学における学修の基盤形成を図る。
 - ・ 2年次以降には専門科目(特講科目および演習科目)を段階性をもって体系的に配置する。
 - ・ 4年次の卒業研究(論文)を必修とし、学科における学修の総合的成果として位置付ける。
2. (教養・外国語教育)
- ・ DP 各項目の基盤形成に資するために、1年次に全学的な幅広い教養科目を偏りなく履修することにより広い視野や多角的な視点の獲得を促す。
 - ・ 異文化理解の一環として外国語科目を主として1・2年次に配し、個々の関心に応じた柔軟な履修を促す。
3. (専門教育)
- ・ 1年次の基礎演習と入門科目を基盤にして、2年次以降は、現代社会と歴史・思想の2専修を設け、これらを意識させながら、自分の関心の中心を明確にさせる。
 - ・ 3年次以降は、各自の関心にあわせて学問分野と研究テーマを絞らせ、卒業研究(論文)執筆の準備を進めさせる。
 - ・ 4年次は、資料・史料の分析および教員との対話を繰り返しながら、卒業研究(論文)を完成させる。

4. (キャリア教育)

- ・卒業後を見据え、学科の学びとキャリア形成との関わりを認識するために、1年次からキャリア教育科目を必修とする。
- ・1年次からの演習を通して、フィールドワーク・アンケート調査や情報の収集・分析とその報告など、社会人に必要な実践的対応力を身につけさせる。

5. (学修の方法と評価)

- ・講義・演習の別に拘わらず、双方向的な学修を通じて人格的涵養を図り、専門知識と研究に対する真摯な態度を身につけさせる。
- ・卒業研究(論文)は複数教員による面接試問を含む厳正な評価を行い、優秀論文については『文化総合学科卒業研究論文・要旨集』に全文を掲載する。

カリキュラム・マップ (18 ページ)